

平成30年度学校評価の結果について

北海道美深高等養護学校あいべつ校

1 教職員アンケートの結果

(1) 調査対象

教育職員（教諭 実習担当教諭 実習助手 養護教諭） 21名
行政職員（事務職員） 1名 計22名

(2) 回収率

合 計 22 / 22 (100%)

(3) 設問項目からの分析

ア 評価の高い項目

肯定的回答(A:十分である、B:おおむね十分である)が90%を超えた項目
経営方針、教育課程(個別の教育支援計画、個に応じた授業、授業時数、週時程表)、
生徒指導(人格の尊重、生徒との信頼関係)、安全指導、進路指導、情報発信、連携、
保護者対応、事務手続き

イ 評価の低い項目

否定的回答(C:やや不十分である、D:不十分である)が比較的多い項目
教育課程(個別の指導計画・通知表)、生徒指導(問題行動の早期発見)

ウ わからないと回答した項目

教育課程(個別の指導計画・通知表)
事務手続き(就学奨励費・学校納入金)

集計からの分析と今後の取り組み

- 29年度に引き続き、学校教育目標の達成に向けて教育実践しているという高い評価をおおむね得ることができました。
- 個に応じた授業や各教科等の授業時数、学習活動の展開の週時程などの各項目で高い評価を得ることができました。
- 生徒の人格や人権の尊重、社会で必要なマナーやルールの指導などの項目で高い評価を得ることができました。
- 危機管理意識や環境衛生など、生徒の健康保持及び増進等に関わる項目で高い評価を得ることができました。
- 生徒の実態に合った進路指導について高い評価を得ることができました。
- 教育方針や教育内容について、保護者や地域への情報発信に関わる項目で高い評価を得ることができました。
- 地域の関係機関や教育機関と連携した特別支援教育のセンター的機能について高い評価を得ることができました。
- 保護者との懇談、服務規律、PTA活動、情報の共有などの各項目について、高い評価を得ることができました。
- ▲ 個別の指導計画の作成について、やや低い評価になりました。今後、教師間で目標、手立て、評価の方法及び内容について、研修等の中で共通理解を図って行きます。
- ▲ 生徒の問題行動へ組織的な指導の項目でやや低い評価となりました。今後は、一部の職員に負担がかかることのないよう、職員全体でチームとして対応するよう改善して行きます。
- ▲ 就学奨励費や学校納入金などの保護者説明や対応について高い評価を得ることができました。今後ともより分かりやすい解説、ワンストップのスムーズな対応に努めます。

2 保護者アンケートの結果について

(1) 調査対象

保護者 44名

(2) 回収率

保護者 42 / 44 (95%)

(3) 設問項目からの分析

ア 評価の高い項目

肯定的回答（A：十分である、B：おおむね十分である）が90%を超えた項目

教育方針、教育課程（個別の教育支援計画、個別の指導計画、個に応じた授業）、

生徒指導（人格尊重、生徒との信頼関係、適切な指導）、

安全指導（事故防止、施設・設備）、進路指導、

情報発信、連携、保護者対応（相談、服務規律、PTA活動、情報伝達）、事務手続き

イ 評価の低い項目

否定的回答（C：やや不十分である、D：不十分である）が比較的多い項目

なし

ウ わからないと回答した項目

教育課程（個に応じた授業）、生徒指導（生徒との信頼関係、適切な指導）、

安全指導（事故防止、施設・設備）、情報発信、連携、保護者対応（PTA活動）

集計からの分析

- 29年度に引き続き、おおむね全ての項目で高い評価を得ました。
- 保護者への適切な情報提供や、教育方針・教育課程の説明（教育内容、個別の教育支援計画、個別の指導計画等）、個に応じた授業の実践によって、教育課程に対する満足度の向上につながったと考えます。
- 事故防止に向けた安全対策や施設・設備及び環境衛生の改善により、安全・安心な学校生活を送ることができていると評価を得ることができました。
- PTA活動について、より多くの保護者が安全に参加できる環境の整備を行うことによって、組織の活性化と安全面での確保が図られ、高い評価を得ることができました。
- ▲ 生徒と教師間、生徒間の信頼関係を構築し、生徒・保護者・教師間の共通理解を図りながらすすめる生徒指導に対する期待の大きいことが明らかとなりました。

今後の取り組み

- 生徒指導（適切な指導）について
 - ・ 生徒指導や生徒対応の場面において、今まで以上に生徒・保護者との共通理解を図り、信頼関係の構築に取り組みます。
- 情報発信、保護者対応について
 - ・ 引き続き、丁寧な保護者対応に努め、教育的な専門用語は極力使用せず、保護者にとってより内容の分かりやすい、文書等の作成に努めます。
- 進路指導
 - ・ 卒業生の保護者からの情報等も含めるなど、懇談会や説明会において、生徒や保護者により一層分かりやすい内容となるよう努めます。

3 教職員アンケートと保護者アンケートの比較結果（保護者：教職員）

(1) 教職員の評価が高く保護者の評価が低い項目
なし

(2) 教職員、保護者ともに評価が高い項目

教育方針98%:100%、教育課程(個別の指導計画) 95%:100%、教育課程(個別に応じた授業) 90%:95%
生徒指導(適切な指導)95%:95%、生徒指導(生徒との信頼関係)93%:95%、
安全指導(安全対策) 95%:95%、安全指導(環境衛生) 95%:91%、進路指導(適切な指導)93%:100%
情報発信93%:95%、連携95%:100%、保護者対応(懇談や相談)93%:100%、
保護者対応(服務規律)98%:100%、保護者対応(PTA活動)95%:100%、
保護者対応(情報の伝達)95%:100%、事務手続き95%:95%

(3) 保護者の評価が高く、教職員の評価が低い項目

教育課程(個別の指導計画) 100%:86%
生徒指導(共通理解) 90%:82%

集計からの分析と今後の取り組み

- 保護者アンケートと職員アンケートから、教育方針や教育課程など、今年度の取り組みが高く評価されている項目が多かった結果となりました。

次年度の取り組みに今回の評価を十分に生かすために、職員全体が学校づくりに参画する意識をさらに高めることが必要であると考えます。

- 引き続き保護者や関係者からのご理解とご協力を得ながら、学校、家庭、地域が一体となった『地域に開かれた学校づくり』をさらに推進しながら、卒業後の社会参加に必要となる生徒の資質・能力の育成を目指す教育活動の在り方を引き続き検討して行きます。

- ▲ 個別の指導計画（通知表）については、保護者・生徒にとってより妥当性のある成長過程が分かりやすい評価の在り方について研究・研修を行う等、教職員の専門性を高めるための取り組みを検討していきます。

- ▲ 生徒指導については、保護者の評価は高かったのですが、教職員の評価は問題行動の対応について、特定の職員に負担が集中する状況が見られたことからやや低い結果となりました。今後は特定の職員へ負担が集中することのないよう、学校全体として組織的な支援体制の整備を進めて行きます。

4 生徒アンケートの結果について

(1) 調査対象

生徒 45名

(2) 回収率

生徒 42 / 45 (93%)

(3) 設問項目からの分析

ア 評価の高い項目

「はい」が90%を超えた項目

学習指導 (分かりやすい授業)

生徒指導 (社会でのルールやマナー)

学習内容 (生活に役立つ学習)

イ 評価の低い項目

「いいえ」が10%を上回った項目

満足度、困り感、信頼関係、友人関係、相談体制、進路指導、自己有用感、

ウ わからないとの回答が10%を上回った項目

自己有用感 (23%)、困り感 (19%)、進路指導 (19%)

満足度 (14%)、信頼関係 (12%)、友人関係 (12%)

集計からの分析と今後の取り組み

- 「学習指導」、「学習内容」について、卒業後の生活に必要な具体的な知識や技能を身に付けることができる分かりやすい授業が行われていると高い評価が得られました。今後も授業力向上のための研究や研修を進めなが、生徒の自立と社会参加に直結する分かりやすい授業作りに努めます。
- 「生徒指導」について、昨年度に引き続き、肯定的な回答を得ることができました。今後とも社会人になるために必要な力 (ルールやマナー) について、進路指導との連携をさらに進めながら生徒にしっかりと伝わりるような指導を継続して行きます。
- ▲ 「困り感」「自己有用感」については、昨年同様、学校生活における自分の居場所や目標、役割などが明確にされていないため、楽しみや意欲につながっていないことが大きな要因と考えられます。引き続き、各学年やクラスでの居場所作りや役割、意欲向上につながる活動の充実に向けた取組に努めます。
- ▲ 「進路指導」については、1学年及び2学年での評価がやや低い結果となりました。現在進路選択の途中のため、具体的な進路の方向性が定まっていないことが不安感につながっていると考えられます。今後、個別でのキャリアカウンセリング等を通して、将来の自立と社会参加に向けた指導と支援の充実に努めます。